

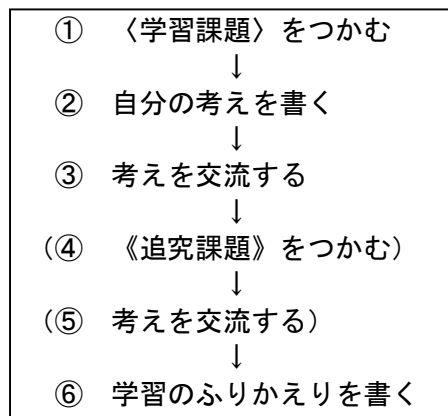
B-1 授業づくりの視点

1 考える場を保障した課題解決型の学習過程

思考力の育成をめざしていくためには、学習過程の中で子ども達に考える場を保障していく必要がある。1年生から6年生までが、基本的な学習過程を共有化していくことで、授業中での思考場面を子ども達に意識化できるようにしていくとともに、6年間のスパンで思考力を育てていけると考える。

その際、課題に対して自分の考えを作り整理するためにも書く作業を取り入れていくことが有効だと考える。次に、各自の考えを話し合い、交流する場を設けることで、多様な事実や考えに気づくことができるとともに、研究主題にある「発信力」の育成にもつなげていけると考えている。さらに、授業の終末では、授業の始めの自分の考えと終わりの考えを比較し学習のふりかえりを書くことで、1時間の学習での自分の変容に気づき、学びの足跡を残すとともに、次時の学習へとつなぐ橋渡しとすることができると考える。

また、高学年では、「考えを出し合い、深める子」をめざして、事実認識をした後に追究課題を投げかけることで、より深い思考をともなった学習が可能になると考える。



2 学習意欲を喚起し、思考を促す学習課題（追究課題）の設定

課題解決型の授業が、子ども達の思考力を育てるものである限り、その学習のスタートとなる学習課題や教師の発問は子ども達の思考を促す上で大きな比重を占めている。

学習課題は、子ども達にとって、その授業で何を考えるのかを明らかにするものであり、教師の目から見れば、授業のねらいを達成させるための切り口となるものである。昨年度の研究の結果から、①単元にストーリー性をもたせることで、子ども達の学習意欲を喚起することができること、②事実認識をしっかりとらせた後で課題を投げかけることで、子ども達の思考が深まることが明らかになってきた。しかし、どのような課題を、どのように提示していけば、子ども達が意欲的に学習に取り組み、豊かに考え出すのかについて、まだまだ手探りの状態である。

そこで、本年度も、特に教科の本質に迫る思考を要する学習場面では、以下の例のように思考を問う課題になるよう配慮し、その質（内容）を吟味しながら授業に取り組んでいきたい。

- ・ なぜ～、どうして～、どのように～、どうしたら～？
- ・ どんな方法があるのか
- ・ 違いや似ているところをさがそう、仲間分けしよう
- ・ いくつあるのか、何通りあるのか？

3 豊かな思考を生み出すための、五感をとおした学習活動の工夫

子ども達が豊かに考え課題を解決していくためには、その考えの土台となる確かな事実認識が必要である。そして、確かな事実認識をするためには、教師が一方向的に知識を伝達していくような学習形態にとどまらず、子ども達自身が五感をとおして、自ら感じ、学びとっていくことが大切である。そこで、単元計画を立てる際には、以下の例のような学習活動をねらいに即して位置づけていくことが大切であると考えられる。

(例) 国語：音読，動作化など
社会：体験活動，見学，インタビューなど
算数：算数的活動（操作，体験，体感）など
理科：実験，観察など
生活：体験活動，人との交流など

4 子どもの思考を支援する板書の工夫

教師が1時間の授業を構成していく際に，欠かせない支援の1つとして板書がある。板書には，学習内容を整理したり，学習内容を記録したりする役割はもちろん，板書をとおして子ども同士のかかわりを促し，思考を助ける役割がある。

そこで，以下の点に留意しながら，子どもの思考を支援する板書の工夫に心がけていきたい。

- ① 意図的な板書を行うために，事前に板書計画を立てる。
- ② 〈学習課題〉を明記する。
- ③ 書く言葉を精選し，キーワードで書く。
- ④ 関連や対比，経過などが分かるように構造的に書く。
- ⑤ 文字の大きさ，色づかいを工夫する。